光学医療診療部

１　構　成　員

	平成 24 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
准教授	0 人
講師（うち病院籍）	1 人　（1 人）
助教（うち病院籍）	0 人　（0 人）
助手（うち病院籍）	0 人　（0 人）
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人　（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	3 人
合計	5 人

２　教員の異動状況

今野　弘之（部長･教授）　（平成 18 年 1 月 15 日～現職）

田中　達郎（副部長・准教授）（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日退職）

大澤　恵　（副部長・講師）　（平成 24 年 1 月 1 日～現職）

３　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成 23 年度
（1）原著論文数（うち邦文のもの）	2 編　（0 編）
そのインパクトファクターの合計	4.33
（2）論文形式のプロシーディングズ数	0 編
（3）総説数（うち邦文のもの）	1 編　（1 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
（4）著書数（うち邦文のもの）	3 編　（3 編）
（5）症例報告数（うち邦文のもの）	2 編　（2 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
（6）その他（レター等）	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00

（1）原著論文（当該教室所属の者に下線）

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Takayanagi Y, Osawa S＊, Ikuma M, Takagaki K, Zhang J, Hamaya Y, Yamada T, Sugimoto M, Furuta T, Miyajima H, Sugimoto K. Norepinephrine suppresses IFN-γ and TNF-α production by murine intestinal intraepithelial lymphocytes via the β (1) adrenoceptor. J Neuroimmunol. 2012 Apr;245(1-2):66-74. Epub 2012 Mar 6. (IF:2.901)
2. Yamade M, Sugimoto M, Nishino M, Uotani T, Sahara S, Iwaizumi M, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Furuta T＊. Trastuzumab has opposing effects on SN-38-induced double-strand breaks and cytotoxicity in HER2-positive gastric cancer cells depending on administration sequence. Anticancer Res. 32(1):105-14, 2012 (IF:1.428)

インパクトファクターの小計 ［ 4.329 ］

（３）総　説

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 池谷賢太郎＊，杉本健，大澤恵，丸山保彦，景岡正信，大畠昭彦，森雅史，志村輝幸: 細菌・真菌・クラミジアによる消化管障害(12)クラミジア　臨床消化器内科, 26 巻 7 号：978-982, 2011.

インパクトファクターの小計 ［ 0.00 ］

（４）著　書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大澤恵：透析患者に多い消化管出血は？ 若手医師のための透析診療のコツ 文光堂 198-201, 2011.
2. 大澤恵：胃管留置，経管栄養，胃洗浄. 必携内科検査・手技マニュアル この 1 冊ですべてがわかる! 南江堂 29-39, 2011.
3. 大澤恵:小腸検査. 必携内科検査･手技マニュアル この 1 冊ですべてがわかる! 南江堂 167-170, 2011.

（５）症例報告

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 小平 知世, 大澤 恵, 西野 眞史, 高柳 泰宏, 杉本 光繁, 杉本 健, 古田 隆久, 伊熊 睦博: 小腸に滞留したカプセル内視鏡を，イレウス管併用ダブルバルーン内視鏡（「トリプルバルーン法」）により回収しえたクローン病の 1 例. 日本消化器内視鏡学会雑誌 53 巻 4 号：1272-1277, 2011
2. 松浦 友春, 山出 美穂子, 松下 直哉, 川崎 真佑, 寺井 智宏, 魚谷 貴洋, 高柳 泰宏, 山田 貴教, 小平 知世, 杉本 光繁, 古田 隆久, 杉本 健, 大澤 恵, 伊熊 睦博. 四肢の筋膜炎を合併した好酸球性胃腸炎の 1 例. 日本消化器病学会雑誌 108 巻 3 号：444-450, 2011

インパクトファクターの小計 ［ 0.00 ］

４　特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

５　医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
（１）文部科学省科学研究費	1 件	(270 万円)
（２）厚生労働科学研究費	0 件	（　0 万円）
（３）他政府機関による研究助成	0 件	（　0 万円）
（４）財団助成金	0 件	（　0 万円）
（５）受託研究または共同研究	0 件	（　0 万円）
（６）奨学寄附金その他（民間より）	0 件	（　0 万円）

（１）文部科学省科学研究費

今野弘之　基盤研究(B) Premetastatic Niche を標的にした新しい癌治療戦略の構築　　270 万円

７　学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
（２）シンポジウム発表数	0 件	0 件
（３）学会座長回数	0 件	0 件
（４）学会開催回数	0 件	1 件
（５）学会役員等回数	0 件	16 件
（６）一般演題発表数	0 件	

（２）国内学会の開催・参加

1）主催した学会名

第 20 回日本がん転移学会学術集会・総会

(H23.6.30 ～ 7.1 ：アクトシティ浜松コングレスセンター、オークラアクトシティホテル浜松)

2）学会における特別講演・招待講演

大澤　恵:招待講演:『日本消化器内視鏡学会東海支部セミナー:小腸疾患の内視鏡診断と治療』、日本消化器内視鏡学会、2012 年 1 月 21 日、名古屋

（３）役職についている国際・国内学会名とその役割

今野 弘之：日本消化器外科学会 理事(専門医制度担当)、評議員、NCD専門医制度委員

日本胃癌学会 理事、評議員、会則委員長、将来構想副委員長、非選挙評議員選考委員

日本がん転移学会 理事、会長、評議員

日本病態プロテアーゼ学会 理事
がん集学的治療研究財団 理事
日本外科学会 評議員、英文誌編集委員、静岡県安全管理責任者
日本癌治療学会 評議員、総務委員会委員、
日本癌学会 評議員
日本消化器病学会 財団評議員、学会評議員、学会機関誌編集委員、東海支部幹事
日本消化器内視鏡学会 評議員（東海支部評議員）、和文誌査読委員
日本外科系連合学会 Fellow、Fellow会員資格審査委員会委員、国際・渉外委員会委員
日本臨床外科学会 評議員
日本食道学会 評議員
日本消化器癌発生学会 評議員、会則委員長
日本癌病態治療研究会 世話人

大澤　恵：日本消化器病学会東海支部評議員

８　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2 件	1 件

（１）国内の英文雑誌の編集

今野 弘之　Surgery Today（日本外科学会）Editorial Board　IF 有

今野 弘之　Clinical Journal of Gastroenterology（日本消化器病学会）Editorial Board　IF 無

（２）外国の学術雑誌の編集

大澤　恵　World Journal of Gastroenterology（中国）　Editorial Board　IF 有

（３）国内外の英文雑誌のレフリー

今野 弘之　20 回　Surgery Today　（日本）

今野 弘之　20 回　Clinical Journal of Gastroenterology　（日本）

今野 弘之　5 回　Digestive Endoscopy　（日本）

今野 弘之　3 回　Cancer Science　(日本)

大澤　恵　10 回　World Journal of Gastroenterology（中国）

９　共同研究の実施状況

	平成 23 年度
（１）国際共同研究	0 件
（２）国内共同研究	0 件
（３）学内共同研究	0 件

10　産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	0 件

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. ダブルバルーン内視鏡を用いた小腸内視鏡診断における深部挿入の工夫
   小腸疾患の内視鏡診断および治療は、バルーン内視鏡の登場により大きく進歩したが、全小腸観察率向上のためにはさらなる手技の工夫が望まれる。当院ではダブルバルーン内視鏡のオーバーチューブに脱気用の減圧チューブを装着した新たな方法（サイドチューブ法）や、イレウス管挿入を併用してその先端のバルーンを固定点として利用する方法（トリプルバルーン法）を考案し報告した。

2. 原因不明の消化管出血（OGIB）に対する、内視鏡診断と治療の再考
   2010 年に本邦においても原因不明の消化管出血(OGIB: obscure gastrointestinal bleeding)の定義が決まり、顕在性出血 Overt bleeding と潜在性出血 Occult bleeding に分類され、顕在性は ongoing と previous に細分類された。それぞれの状況に応じた疾患群の特性および診断アプローチを再検討し、最善の選択を提唱する。

3. 消化管癌に対する光線力学療法のさらなる可能性
   これまで食道癌および胃癌の表在癌に対して、フォトフリンを用いた光線力学療法(PDT)を施行し、良好な成績を得てきた。本治療の有用性をさらに高めるための光感受性物質の改良や、レーザー照射法の改善などを目的とする。

4. 早期食道癌に対する安全かつ確実な粘膜下層剥離術(ESD)の手技の確立
   早期食道癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)は、狭い空間の中で薄い食道壁を処置する難易度の高い手技である。大腸用に開発されたは SB ナイフ Jr を用い、糸付クリップなどの手技を併用した新たな手技で施行している。

5. 小腸上皮間リンパ球を介した消化管粘膜免疫制御の解明
   マウスの小腸上皮間リンパ球を単離し、一時培養し薬剤添加によるサイトカイン産生や、増殖、アポトーシス誘導などを検討してきた。これまでの我々の知見から、グルタミンは促進に、ヒスタミン、カテコールアミン、スタチンは抑制に作用することが明らかとなった。

15　新聞，雑誌等による報道

1. 今野弘之　がんを知るセミナー&トーク
   「ここまで進んだ、がん診断」　静岡新聞　平成 23 年 12 月 27 日